

- 1 風の鳴る夜のワンルーム西行忌
- 2 美しき明日も語れず卒業す
- 3 春一番わが鱗粉を殺ぎゆけり
- 4 三月の硝子細工の雨が降る
- 5 朧夜のまだ灯の消えぬ菓学科
- 6 原子炉にダリの時計のかぎろへる
- 7 この国の54基やフクシマ忌
- 8 死す魚(うお)の上にしづかに斑雪(はだれ)降る
- 9 縫針が音なく折れて冴返る
- 10 過去といふ海市に家族生きにけり
- 11 花夕焼ひとは記憶の影であり
- 12 散る花の水の速さとなりけり
- 13 死のやうな黄昏の来るヒヤシンス
- 14 草餅や日常といふ筐にゐる
- 15 独活ひたす水の香りてゐたりけり
- 16 ひとりひとりの逝く春を抱く列車かな
- 17 天上の棧敷にこゑや寺山忌
- 18 母のない子のごとく寝る山瀬風(やませ)の夜
- 19 阿佐ヶ谷に小劇を観て寺山忌
- 20 遺棄されし原子炉の地も夏兆す
- 21 ウェイトレスきびきび動き立夏かな
- 22 走つても走つても驟雨を脱け出せず
- 23 半夏生人間ドックに暮れにけり
- 24 旅へ出る夜のレースのカーディガン
- 25 逢へぬ夜の雨を孕みぬ百日紅
- 26 アイスクリーム時間が舌にほどけゆく
- 27 花火果て人それぞれの闇を負ふ
- 28 なんとなく微熱の残る竹夫人
- 29 ジーパンを履き倒し夏了りけり
- 30 爽やかに焼きたての麺麴運ばるる
- 31 羽根ほしき夜なり卓上のラ・フランス
- 32 雁の列ニュース速報流れをり
- 33 街のネオン夜学の顔に奔りけり
- 34 ハロウィンや地下演劇の階降りる
- 35 夜学あとシャワー短く浴びにけり
- 36 太陽のごとく西瓜の届きけり
- 37 星月夜B寝台に揺られをり
- 38 威銃(おどしづつ)いちまいの空破れたり
- 39 怒気含むデモの群衆まんじゆさげ
- 40 不知火をまなうらに閉ぢ帰りけり
- 41 微熱あり風邪の神やら恋の神
- 42 スタジオの廊下しんしんレノンの忌
- 43 控室Cに冬薔薇届きけり
- 44 ロケ班が寒波を連れて戻りけり
- 45 窓灯り浮かぶ雪夜の白川郷
- 46 おでん提(さ)げ夜勤の扉開けにけり
- 47 凍てし夜のほころびのごと眠り落つ
- 48 セーターの目に詰まりゐる月日の香
- 49 冬深し薔薇の匂ひの紅茶淹れ
- 50 少女期が羽子板市の灯のなかに

- 75 噴水やうつくしき詩を産むごとし
- 74 デイオールのリップを塗つてダリアの夜
- 73 どれだけの恋があつたか水着棄つ
- 72 焼酎や酒場に磨く会話術
- 71 素饅飩を社食に啜る薄暑かな
- 70 吹き抜けの天井高しビアガーデン
- 69 初夏の鎖骨の美しきペンダント
- 68 手付かずの夜の降りて来る杜鵑花かな
- 67 マドラーを揺らして春を逝かせけり
- 66 桜鯛海の微熱をまだ残す
- 65 花まつり隣家の赤児泣き止まず
- 64 春駒のごとくランチへ出でにけり
- 63 まつさらにアイロンかけて四月来る
- 62 ヴィーナスは海より生れて春のこゑ
- 61 啓蟄や野菜いつぱいのカレー煮る
- 60 野火猛り遥かな夜を呼びにけり
- 59 海市まだ瓦礫とともにありにけり
- 58 帰らざるものを二月と呼びにけり
- 57 一穢(いちえ)なきひかり寂けき寒の水
- 56 聖堂にひかりの遊ぶ春隣
- 55 泣初めの夜のバスタブとなりにけり
- 54 索々と恵方を渡る風の音
- 53 泣きながら笑ふ民族福笑ひ
- 52 木菟鳴いてどこかで子ども売られてる
- 51 嵩なして過ぐいのちあり竜の玉
- 76 ほうたるを掴み損ねて河童の手
- 77 水掻を持つ子も混ざり夏の川
- 78 夏虹のしづかに消えし遠野郷
- 79 融け易し決意こんもり氷水
- 80 そのむかし人魚でありし裸身かな
- 81 逝く夏のドアの開いては閉まる音
- 82 エルヴィス忌落語を聴いて暮れにけり
- 83 終戦日夜も灼熱の窓ガラス
- 84 仙石線置き去りにされ初尾花
- 85 缶ビール片手にねぶた待ちにけり
- 86 咆哮をあげうねり来るねぶたの夜
- 87 月よりも白き肌して跳人の娘
- 88 曲がるとき風生まれたりねぶた山車
- 89 雁の昼カップヌードル出来上がる
- 90 冷まじや無人の夜の撮影所
- 91 羊水の記憶ありけり秋時雨
- 92 なるの地の白鳥の眼の澄みにけり
- 93 鷹匠の横顔に父見たりけり
- 94 焼鳥やボルガに時の嵩みあり
- 95 星の音させて淋しや枯芙蓉
- 96 冬薔薇腐蝕してゆく思想あり
- 97 わが魂に欠落のあり冬の虹
- 98 風呂桶の黴とつてゐる熊楠忌
- 99 寒籠り胸に緋色の蛇を飼ひ
- 100 綿虫や膨張しゆく宇宙あり